

⑨ 日本国特許庁(JP)

⑩ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報(A) 平1-136114

⑤ Int. Cl.

識別記号

庁内整理番号

⑬ 公開 平成1年(1989)5月29日

G 02 C 5/14
A 61 N 1/42
G 02 C 11/00

7915-2H
L-7232-4C
7029-2H

審査請求 有 発明の数 1 (全3頁)

⑭ 発明の名称 メガネ

⑮ 特 願 昭62-294707

⑯ 出 願 昭62(1987)11月21日

⑰ 発 明 者 中 松 義 郎 東京都港区南青山5丁目1番10-1105号

⑱ 出 願 人 中 松 義 郎 東京都港区南青山5丁目1番10-1105号

明 細 書

1. 発明の名称 メガネ

2. 特許請求の範囲

耳の後方にマグネットを設けた事の特徴とするメガネ。

3. 発明の詳細な説明

本発明は、耳の後方にマグネットを設け、このマグネットの錘によりメガネの重心を耳より後に移し、メガネが鼻部を圧迫して神経にストレスを与えたり、お化粧はげをつくることを防ぐのみならず、その重錘としたマグネットにより後頭部血管にフレミング右手の法則により血流を促進せしめ頭脳の働きを良くするメガネに関する発明である。

第1図は本発明実施例を示し、レンズ1をはめたメガネフレーム2に取付けたつる3の先端部に、フェライトを扁平円筒形に成型したもの又は永久磁石4を設けたものであり、つる3と耳5との接点6から前方の重心7までの距離を

L_1 、重心7の重さ W_1 、接点6から後方の重心8までの距離を L_2 、重心8の重さを W_2 とすると、

$$W_1 \times L_1 = W_2 \times L_2$$

として前後が等モーメントとされている。

これによりメガネのレンズ間のブリッジが鼻をおさえて荷重がからず、又鼻から浮くので鼻付近の神経を圧迫したり、頭痛が生じることがなく、又、鼻に跡がついたり、化粧がはがれることがない。

マグネット4は、つるや他のメガネ材料よりも比重が大きいため重錘として小型で有効である。

このようにマグネット4は、鼻にメガネの荷重を欠けぬ重錘となると共に、その磁力が頭部に作用して血行を促進し、凝りをなくするという二重の効果を本発明は狙ったものである。

第2図は、第1図のつる3のマグネットを設けた端部9を幅広として後頭部を囲むようにしゃもじ状とし、そのしゃもじ状端部9の末端

SPECTACLES

Patent Number: JP1136114
Publication date: 1989-05-29
Inventor(s): NAKAMATSU YOSHIRO
Applicant(s):: YOSHIRO NAKAMATSU
Requested Patent: ☐ JP1136114
Application Number: JP19870294707 19871121
Priority Number(s):
IPC Classification: G02C5/14 ; A61N1/42 ; G02C11/00
EC Classification:
Equivalents:

Abstract

PURPOSE:To prevent spectacles from pressing the nose part and to accelerate the blood circulation in the blood vessels in the rear head part by magnets so as to improve the working of the brain by providing the magnets to the rear side of the ears thereby shifting the centroid of the spectacles to the position behind the ears.

CONSTITUTION:Moldings of ferrite formed to a flat cylindrical shape or the permanent magnets 4 are provided to the front end parts of temples 3 mounted to a spectacle frame 2 to which lenses 1 are fitted. The distance from the contact 6 of the temples 3 and the ears 5 to the front centroid 7, designated as L1, the weight of the centroid 7 as W1, the distance from the contact 6 to the rear centroid 8 as L2, and the weight of the centroid 8 as W2 are specified to $W1 \times L1 = W2 \times L2$ so that the equal moments are obtd. in the front and the rear. The bridge between the lenses of the spectacles is thereby prevented from pressing the nose and from being thereby loaded and since the spectacles float from the nose, the pressing of the nerves near the nose and the consequent headache are obviated. In addition, the magnetic forces of the magnets act on the neck to accelerate the blood circulation and to eliminate the stiffness, thereby increasing the blood circulation to the optic nerve and intensifying the eyesight.

Data supplied from the esp@cenet database - I2

特開平1-136114(2)

にマグネット4をはめ込み、このしゃもじ状端部9はヒンジ10とバネにより矢印11のごとく内方に曲り頭をはさむようにした本発明実施例であり、その端部9が耳の後部で頭に密接することによりメガネを安定して保持すると共に、マグネットが重錘となり、且つ皮膚に近接して血行促進効果を向上させるものである。

第3図は、第2図のマグネット4の周囲にギザギザの歯12を有するヨーク13をマグネットと底部を連結して設け、マグネット4と歯12を皮膚に押当てる本発明実施例を示し、ヨーク13によりマグネット4と磁気回路を形成して磁場を強くし、さらに歯12により機械的刺激を与え、さらに歯12によりメガネがスリップするのを防止する。第4図はヨークとマグネットを示す。

前記実施例の他の種々の変形はすべて本発明に含まれるものである。

本発明は上記のごときものであるから、メガネの前後の等モーメントとする重錘が小型となり、しかも頭の血行や頭の働きを良くし、鼻に

メガネの荷重がかからないのでストレスがなく女性の場合は化粧がはげないなど画期的なメガネを得る事ができる。

4. 図面の簡単な説明

第1図は本発明第1実施例の側面図、
第2図は本発明第2実施例の斜視図、
第3図は本発明第3実施例の平面図、
第4図は第3図の一部の斜視図

5 耳

4 マグネット

出願人 中 松 義 郎

手続補正書(自発)

昭和62年/2月22日

特許庁長官 小川邦夫 殿

1. 事件の表示

昭和62年特許願第296707号

2. 発明の名称

メガネ

3. 補正をする者

事件との関係

特許出願人

住所 〒107

東京都港区南青山5丁目1番10-1105号

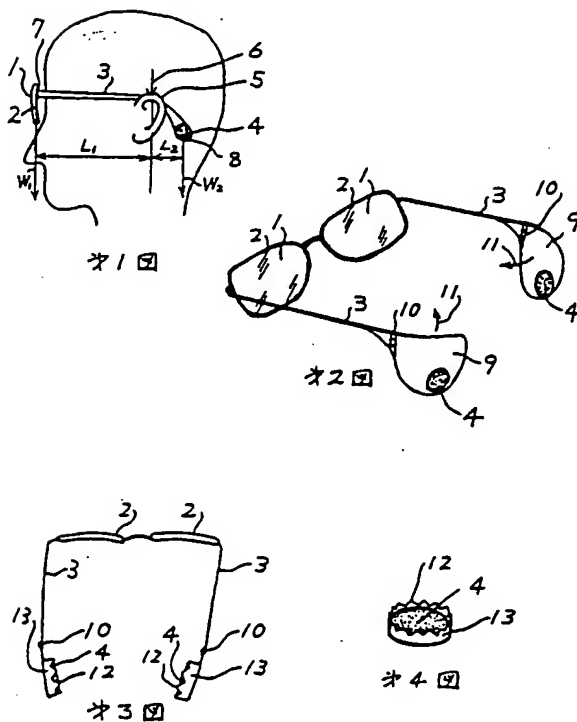
氏名

中 松 義 郎
TEL 03-585-5605

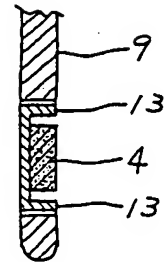
4. 補正の対象

明細書の「発明の詳細な説明」と「図面の簡単な説明」の欄、および図面。

5. 補正の内容



- (1) 明細書第2頁第16行「なくする」とあるを「なくし、視神経への血流を増大して視力を増強する」と補正する。
 - (2) 明細書第3頁第15行「第4図はヨークとマグネットを示す。」とあるを「第4図および第5図はヨークとマグネットとの関係を示す。なお、前記ヨークやその歯12がなくても本発明に含まれるものである。」
 - (3) 明細書第4頁第8行の次に「第5図は本発明第4実施例の横断面図」を加入する
 - (4) 別紙のとおりに図面の第5図を加入する。
- 以上。



第5図